

市区町村名	富山県南砺市	担当部署	市長政策部地方創生推進課
		電話番号	(0763) 23-2001

1 取組事例名

そくさいネットふれ iTV 整備事業

2 取組期間

2009 年度（平成 21 年度）～ （継続中）

3 取組概要

平成 21 年度総務省「ユビキタスタウン構想推進事業」の採択を受け、高齢者世帯を中心とした地域住民の安心・安全の確保のため、簡単な操作で利用可能なビデオ通話システム「ふれ iTV」を構築し、地域ぐるみの高齢者世帯や限界集落の支援環境を整備している事業。「ふれ iTV」端末を設置した世帯では、災害情報や市政情報などが適宜端末に表示・読み上げされるほか、遠隔地の家族等とのビデオ通話や、買い物支援機能を通じ自宅でスーパーの商品を買う（商品は自宅に配送）ことも可能となっている。

4 背景・目的

高齢者比率が 3 割を超え、中山間地域を中心に 31 の限界集落が存在する当市では、個々の集落の特性に応じた振興策を実施するとともに、地域住民のくらしを守るため、集落支援員の委嘱など様々な取組を行ってきた。しかし、人口が減少し財政状況も厳しい中、人的リソースによる継続的な支援は難しく、ICT の利活用により長期的なコスト低減を図るため、「そくさいネットふれ iTV 整備事業」をスタートした。

5 取組の具体的内容

○ 2009 年に総務省の「ユビキタス構想推進事業」の採択を受け、事業開始。住民説明会・利用者講習会を経て 2011 年 2 月より試験運用開始。同年 4 月より本格運用。

○ 利用を希望する高齢者住宅等に「ふれ iTV」端末を設置、下記機能を通じて生活支援を実施。
（H25/12 から、防災・連絡機能強化した「ふれ iTV II」として運用中）

【おしらせ（緊急・一般）表示機能】

災害情報（避難情報や緊急地震速報など）、行政センターや地区からのお知らせを表示。文章を自動で読み上げ。

【メール配信見守り機能】

毎日定時にお天気情報をポップアップ、閉じるボタンを押すことにより、事前に登録された家族等にメールを配信。

【ビデオ通話機能】

家族、友達、地域住民等とビデオ通話をすることができる。「ふれ iTV」端末同士のほか、パソコンやスマートフォンとも通話可能。また、強制通話機能により、遠隔地にお住いの家族等から強制的に通話を開始することもできる。

【買い物支援機能】

ネットスーパーや地元商店から買い物ができる。店舗と直接ビデオ通話をして買い物ができ、代金は商品配達時に現金で支払うことができるため、高齢者でも安心して利用できる。

【その他の機能】

地域のお天気情報をいつでも閲覧できるほか、ケーブルテレビ番組や健康教室等の生活に役立つ動画を楽しむこともできる。また、山間地でもインターネット経由で高音質ラジオが聴取可能。

- 「ふれ iTV II」端末の利用料は、山間過疎地域の高齢者のみ世帯で保守料通信料込みという条件で、市からの助成により最低月 486 円、それ以外の世帯で最高月 2,052 円。
- 各集落の区長やマネージャーなどが、集会やお祭りなどの記事を自由に発信することが可能となっており、地域の情報を迅速に届けることができる。また、社会福祉協議会などが、ビデオ通話機能を活用し、効率的に平時の見守り活動・災害時の安否確認を行うことができる。
- 端末の操作等についてわからないことがあるときは、地元ケーブルテレビのサポートセンターに相談することができ、現地対応も実施している。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- 「ふれ iTV」システムの構築に際し、既存ネットワーク（地域 ICT 対面型ネットワーク、地域公共ネットワーク、地域 ICT 医療ネットワーク）とリンクさせることで、当初構築コストの低減を図った。
- ケーブルテレビの普及率が高いことから、ケーブルテレビのネット回線を活用するとともに、地元ケーブルテレビと共同して「ふれ iTV」システムを運用している。

7 取組の効果・費用

<取組の効果>

- 平成 27 年度末現在の端末設置世帯数：624 世帯（行政施設分を含む）
- 端末に表示されるお知らせの既読件数：22,862 件
- 利用者満足度（お知らせ利用している世帯割合）：75%

<取組の費用>

- 初期費用（H22 年度のシステム構築経費）：約 9,500 万円（うち市の一般財源 760 万円）
- 運用費用（平成 23 年度以降の 1 年あたりの運用経費）：約 500~800 万円

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- 当初のモデルでは、最大音量にしても高齢者には聞き取りが難しく、スピーカーを別途外付けして対策を行った。
- 使い方が分からない方の対応として、当初の「ふれ iTV」は集落のマネージャーを設置して対応したが、随時対応がとれないことから、「ふれ iTV II」からは地元ケーブルテレビのサポートセンターを利用して運用を行った。
- スムーズな導入を行うため、3 カ月間のお試し期間を設け、契約後ケーブルテレビの料金に含めて納入してもらうこととした。

9 今後の予定・構想

- 高齢者にとってより使いやすい端末に改良することが必要で、それを通じ普及拡大を図る。中山間部では一定程度普及が進んでいる一方、平野部における普及促進が課題。
- 介護事業者による活用など、民間サービスとして利用拡大が図られるよう事業者と連携を進める。

10 他団体へのアドバイス

- 高齢者をターゲットにした事業におけるサポート及び料金徴収については、顔の見える地元事業者の協力が不可欠。
- 防災無線内容の伝達については、音声だけではなく文字による通知も必要があり、多方面からの通知が望ましい。
- 山間過疎地域においては、大雨大雪警報等の気象情報や道路の通行止め情報などが日常生活に不可欠な情報であり、その需要は非常に高い。
- 高齢者のみ世帯と遠方の親族とをつなぐツールに対する需要は多い。

11 取組について記載したホームページ

<http://fureaitv2.city.nanto.toyama.jp/index.html>